

北部山岳地域に暮らす少数民族の子どもたちのための 包括的な栄養改善事業

完了報告書



2020年1月

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

I. はじめに

事業名	北部山岳地域に暮らす少数民族の子どもたちのための包括的な栄養改善事業
事業地	ベトナム社会主義共和国 イエンバイ省（Tram Tau 郡の 4 コミューン、Mu Cang Chai 郡の 6 コミューン） ソラ省（Mai Son 郡の 5 コミューン、Moc Chau 郡の 5 コミューン）
事業期間	2017 年 1 月 1 日から 2020 年 12 月 31 日まで
報告対象期間	2018 年 11 月 1 日から 2019 年 10 月 31 日まで
事業の総受益者	5 歳未満の子ども 10,607 人、妊産婦 774 人、 生殖年齢の女性 22,228 人

2019 年に「北部山岳地域に暮らす少数民族の子どもたちのための包括的な栄養改善事業」へのあたたかいご支援をいただき、ありがとうございました。皆様のご寄付が、現地での食料の確保と子どもたちの栄養改善につながりました。心からの感謝をお伝えするとともに、活動の報告を致します。今後も引き続きのご支援をお願い致します。

II. 背景と本事業の目的

1. 事業対象地の子どもたちを取り巻く課題

ベトナムでは著しい経済成長を遂げ、貧困削減を大きく達成しましたが、都市部と農村部の経済格差は拡大し、経済発展から取り残された農村部に暮らす少数民族の人々の生活は、さらに厳しくなっています。北部の山岳地域では、ベトナムにおける全少数民族人口の約半数が居住し、人口の約 66%が貧困状態にあり、そのうち 70%は最貧困層に属しています。ベトナムの包括的な発展を目指すにあたり、少数民族の人々への支援は重要な課題となっています。

本事業は、モン族、タイ族、ザオ族、といった少数民族が多く暮らすベトナム北部山岳地域に位置するイエンバイ省の 2 郡とソラ省の 2 郡で実施しています。2017 年に本事業が実施した調査によると、国全体の発育阻害率は 24.6%であるのに対し、事業対象地 4 郡の発育阻害率は 54.3%でした。幼少期の栄養不良は脳や身体の発達を妨げ、その後の就学状況や労働収入に多大な影響を及ぼします。



対象地：イエンバイ省、ソラ省

2. 本事業の目的

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、2017 年 1 月から、イエンバイ省の 2 郡とソラ省の 2 郡から選定された合計 200 村（人口に占める少数民族の割合は 97%）で事業を実施しています。現地での活動を通して、子どもの栄養摂取習慣の改善、妊産婦と乳幼児の栄養源の多様化、また母子の栄養ケアによる 5 歳未満の子どもたちの栄養状態の改善を目指します。

3. 前年度までの事業の進捗

この事業は、2017 年 1 月に開始し、2017/2018 年度では 1,972 人の母親と子どもに栄養支援を届けました。こ

これまで地元で入手可能な食材の活用や低コスト農法の技術普及を実施し、現地の農家が導入しやすい技術として、コメの栽培、ニワトリの飼育、家庭菜園、たい肥作りを普及しました。これらの活動により各世帯の日々の食事の確保や食の多様化につながっています。また、コミュニティに根差した母子栄養ケアに関連する活動を効果的に実践していくため、地域住民の行動の変容を促進するコミュニケーション戦略を策定しました。

Ⅲ. 活動報告と主な成果

活動（１）食料および栄養源の確保（家庭菜園、家畜飼育支援、稲作農法改善等）

家庭菜園、家畜飼育支援等、低コストでできる農業技術を取り入れ、子どものいる世帯の食料確保を支援しました。これまでに(a) 家庭菜園、(b) 有機たい肥づくり、(c) 鶏の飼育法改善、(d) コメ高収量システム（SRI：System of Rice Intensification）の研修を実施しました。コメの栽培に適さない地域では (e) 大豆栽培法の改善や (f) 魚の養殖法改善に関する研修を行いました。



家庭菜園の様子
(イエンバイ省 2019年5月)

家庭菜園：子どもの栄養改善に繋がることを理解した上で、約 2,500 世帯が家庭菜園を改善あるいは設置し、多品種の野菜の収穫を通して食事の多様化につながりました。

有機たい肥づくり：家庭菜園で使用する肥料として、有機たい肥づくりの指導を行っています。事業では、伝統的な材料としている牛糞に加えて作物残渣を活用することで多くの量を作ることができます。

鶏の飼育法改善：約 3,000 世帯にヒヨコを配布し、飼育方法の指導を行った結果、成鳥となった鶏が卵を産むようになり、家庭での食事に卵を利用できるようになりました。

コメ高収量システムの普及：土壌や水の状態からコメの栽培に適した地域を対象に約 560 世帯の農家にコメ高収量システムの普及を行いました。コメの生産を通して各家庭での食料の安定的な確保に貢献することが期待されます。

大豆栽培法の改善：大豆の栄養の高さ、調理の容易さ、現地の少数民族が昔から食用としていること等を受け、栽培技術の指導を行いました。約 500 世帯が継続して普及された技術を活用しています。

研修教材の配布：事業では上記の家庭菜園、鶏の飼育法改善等に関する教材として絵を多用したリーフレットやポスターを配布し、対象地での活動の普及を行っています。これまでリーフレットは研修を受講した農家や現地の行政機関に配布されました。



リーフレットの紹介と内容に関する受益者との意見交換
(イエンバイ省 2019年5月)



事業で作成したリーフレットの一部

活動（２）コミュニティに根差した母子栄養ケアおよびその実践

コミュニティでの母子栄養ケアを周知し、実践するために、事業では研修教材作りから保健活動従事者への研修の実施、保健施設での実践を支援しています。また、（１）の活動で作られた野菜を活用して栄養のある食事を作るための料理指導や急性栄養不良の子どもへの支援を行いました。

研修用の教材の作成：文化・歴史的背景からベトナム語を読むことが出来ない少数民族の人々向けに絵やゲームを活用した研修教材をベトナム保健省の協力を得て作成しました。

母子栄養ケアの研修：現地政府の保健関係者を対象に研修指導者を育成し、この研修指導者が村等の保健活動従事者に研修（のべ 637 人）を行いました。

妊婦健診の実施：研修を受けた保健活動従事者が村の保健施設にて妊婦健診を行いました。これまでに合計 671 人が受診しました。

村での栄養イベントの開催や料理指導：栄養イベントの開催を通して、村の中で栄養不良の子どもの有無を早期に確認できるようにしました。また、料理指導教室の開催により、（１）の活動で収穫された野菜や卵等の活用について指導を行いました。

重度急性栄養不良の子ども向けの支援：事業による調査で確認された重度急性栄養不良の子ども 124 人に対し、栄養指導や栄養治療食の提供を行いました。



子どもの身長を測り方を指導している様子
(ソラ省 2019 年 5 月)



研修教材に関する受益者からのヒアリング
(イエンバイ省 2019 年 5 月)

活動（３）栄養政策に関する協議、農村地域での包括的な栄養ケア・アプローチ方法の普及促進

事業対象地 2 省の農業部門と保健部門の連携を促進するため、両部門の政府関係者が参加する現地視察を 2019 年 6 月と 9 月に行いました。また、定期会合を行い、省の開発計画に事業の活動が組み込まれることを目指します。

参加者の声

野菜を育てる家庭菜園と有機肥料づくりに参加したおかげで、私の菜園には以前よりも多くの野菜を育てられるようになりました。収穫した野菜は子どもたちや家族のための食事に使っています。（モン族女性、イエンバイ省）

参加者の声

母子栄養ケアに関する研修の受講前までは、子どもの身長を正しく測る方法が分かりませんでした。研修受講後に私がこれまで行ってきた多くのことが適切でなかったことが分かりましたが、研修で学んだことを通して、子どもの身長を正しく測り、成長の記録を行うことができるようになりました。

（村の保健活動従事者、モン族女性、イエンバイ郡）

V. 今後について

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンは、今後も当事業地において事業を継続し、子どもの栄養改善を促進していきます。現地では引き続き家庭菜園や鶏の飼育法改善に関する研修を行い、新たに伝統的に活用される自然食材の研究の実施を通して栄養価の高い食材を日々の食事に活用することを検討します。また、村での母子栄養ケア研修の実施と実践状況のモニタリングを行い、継続して活動が行われるよう支援します。